

研究室を俯瞰する Overlook Our Laboratory.

2017.5.31 vol.253

今年も各プロジェクト、はじまりました！

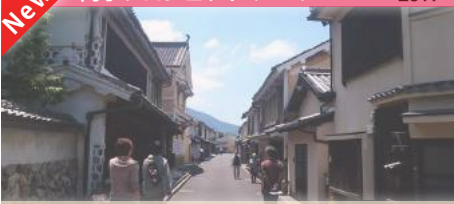
Each Project Started to Run !

text_OKAYAMA/M1

4月20日(木)に2016年度のプロジェクト報告会が開催され、前年度のプロジェクトが一段落つきました。それと同時に、新たなプロジェクトを3つ加え、都内から地方、さらには海外まで多岐にわたるプロジェクトたちが今年も始動しました。

今年度のマガジンでは、毎号いくつかのプロジェクトをピックアップし、どのような活動が行われているかを取り上げていきたいと思えます。まず今月はスタート号と題しまして、都市デザイン研究室の学生が現在関わっている全てのプロジェクトを取り上げ、各プロジェクトのメンバーに3つの質問をぶつけてみました。

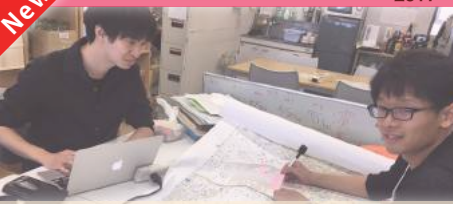
New! 内子プロジェクト(愛媛) 2017~



西村教授
[M1] 岡山・清水・但馬・中戸

- ① 歴史的な空間を守り伝えていく計画の策定に、自分達の手で、直に触れること。
- ② 計画期間は2年。なので最初の1年は内子をよく知ること、が大切だと思う。
- ③ 現地調査の期間である8月と、まとめ作業の年度末。

New! 上野プロジェクト(東京) 2017~



中島准教授・永野助教
[M2] 三文字 [M1] 篠原・中戸・原田・新妻△・松本△

- ① 今進みつつある再開発計画へのオルタナティブな提案ができるかもしれないところ。
- ② 計画に自分達の考えた内容が反映されれば嬉しい。
- ③ 5月31日が最初の山場。そのあとは委員会・シンポジウムごとに。

New! 手賀沼プロジェクト(千葉) 2017~



永野助教
[M1] 岡山・清水・小花△

- ① 手賀沼フィッシングセンターのランドスケープ設計です。本年度内に設計した空間が竣工します！
- ② 無事に基本設計を終えて、今年度内の竣工を実現させることです。
- ③ 6月の基本計画と、8月の基本設計を追い込むタイミングです。

高島平プロジェクト(東京) 2016~



中島准教授
[M2] 田中・中村 [M1] 但馬

- ① 歴史的市街地ではない、高度経済成長期の計画的市街地の歴史的な文脈を都市デザイン研究室の視点で読み解く。
- ② UDCTakと連携し地域の方を巻き込んで、高島平の空間や記憶をアーカイブ化する。
- ③ 住民へのプレゼンテーション前や、報告書・デジタルアーカイブ作成の年度末。

カトマンズプロジェクト(ネパール) 2015~



西村教授・森助教
[M2] 浜田・三文字 [M1] 永門△

- ① 現在、唯一の海外プロジェクトです。日本とは違う都市(集落)の状況に触れることが貴重だと思っています。
- ② 昨年度提案のガイドラインを現地と擦り合わせてゆくこと。そしてスコープを一集落から広げていくこと。
- ③ 現地調査の数と期間が限られるので、事前の準備とその後の整理が重要です。

富士吉田プロジェクト(山梨) 2015~



中島准教授
[D] 宮下 [M1] 岡山 [研究生] 范

- ① 富士山講の文化の根付く上吉田地域で道路拡張による空間変化に伴う提案を行うことができること。
- ② 8月のワークショップで次年度の活動の突破口を見つけること。
- ③ 6月上旬の報告会に向けた模型作りと8月のWS前の期間。

小高プロジェクト(福島) 2014~



窪田特任教授(地域デザイン研究室)
[M1] 篠原

- ① 実際に地域の方々と一緒に議論しながら地域コミュニティの再構築に携われること。
- ② 行政区(小高)のアクションプランの作成と全体構想の検討
- ③ 実施計画が決定する11月が山場だと思います。

浦安プロジェクト(千葉) 2014~



窪田特任教授(地域デザイン研究室)
[M2] 小林△・北川△・三文字 [M1] 伊藤△・永門△

- ① 空間的な調査分析から個別の土地をどう活用するか?というところまで一貫してやれること。
- ② 住民の方々としっかり話すこと・調査をより精緻にやること。
- ③ 秋(9月)ごろ予定の展示会に向けてがひとつ山場になるでしょう。

三国プロジェクト(福井) 2014~



西村教授・中島伸講師(東京都市大) [D] 矢吹
[M2] 神谷・田中・中村・松田 [M1] 但馬 [研究生] 范

- ① 地域課題である空き家問題の解決を目指す。沢山のひと協力しながら進んでおり、いま最も熱く盛り上がっているプロジェクト。
- ② 三国の空き家の不動産流通促進。また、UDCS立ち上げにも関わっていく。
- ③ いつも。強いて言うなら現地に行く前。

佐原プロジェクト(千葉) 2008~



窪田特任教授(地域デザイン研究室)
[M2] 神谷

- ① 町並み・舟運・それにまつわる観光などテーマにあふれた佐原で、現地の様々な方々と共に活動できること。
- ② プロジェクト最後の締めとして住民の方々に上手くバトンを渡すこと。
- ③ 8~9月にこれまでの活動を報告書の形にまとめる予定です。

凡例 開始年度

最近の活動の1コマ

指導教員/参加メンバー

△ = 他研究室

- ① プロジェクトの魅力は?
- ② 今年度の目標は?
- ③ 山場・繁忙期は?

Another Point of View — スタッフから見た研究室 —

Interview with Ms.Ikarashi, a Technical Staff, And Ms.Suzuki, a Secretary.

text_NAKAMURA/M2

いつもとは少し異なった視点から都市デザイン研究室を見つめてみるべく、ふだん同じ部屋にいながなかな学生と深く関わる機会のない**技術職員・五十嵐さん**と、**秘書・鈴木さん**のお二人にインタビューを敢行しました。私たちよりも遥かに長い年月にわたって研究室を見てきているお二人だからこそわかる研究室の今昔を、ランチをしながら語ってもらいます。（聞き手：M2 神谷・中村）

— 現役学生の知らざる研究室 —

> まず、お二人の都市デザイン研究室での経歴と、昔の研究室についてお聞かせください。

五十嵐：私は20年以上前から、技術職員として研究室で仕事をしています。何をしているかと改めて聞かれると答えるのが難しいですが、ホームページの更新や先生の出版のお手伝いなどの仕事を行っています。

鈴木：五十嵐さんは最初から14号館のこの部屋にいるわけではないですよ。

五十嵐：昔は研究室が8号館にあったので、最初の2年間はそちらにいました。渡辺定夫先生が教授で、西村先生が助教授だった頃の話です。研究室の広さはこの部屋と同じくらいでしたが、人数は少なく、プロジェクトもまだ行なわれていなかった時代だったので、とても静かな雰囲気でした。

鈴木：私は、駒場の先端研[※]に7～8年ぐらいいて、昨年はこちらにいます。昨年までは西村先生の所属が先端研だった関係で向こうにいたのですが、こちらの研究室に関する仕事は向こうにいたときから行っています。五十嵐さんが専門性の高い仕事を多くしているのに対して、私は事務系の仕事を中心ですね。先端研には学生があまりいなかったの、こちらほど賑やかな雰囲気ではありませんでした。キャンパス全体も静かで、まさに「研究所」という感じです。雰囲気は今と比べて180度違いますね。

五十嵐：西村先生はこれまでに2度先端研に異動していて、1度目のときは先端研に通う学生もたくさんいたんですね。

> **鈴木さんがこちらに来るまで、お二人はまったく別々にお仕事をされていたのですか。**

鈴木：本郷にいる五十嵐さんに仕事の関係で電話することはあったので、駒場の先端研にいるころから五十嵐さんのことは知っています。昔は五十嵐さんに駒場まで直接書類を届けに来てもらうこともありました。

五十嵐：確か8年ほど前、西村先生が本郷から先端

研へと引っ越しをする際にお手伝いしてもらったときが、鈴木さんとの最初の出会いです。

鈴木：あのときの引っ越し作業は1週間以上かかりましたね。荷物は段ボール200箱ほど、トラック2台分で、本がものすごく多かったです。

— 変わるもの、変わらないもの —

> **長くにわたって研究室を見てきたなかで、昔と比べて変わったなと感じることや、これは昔と変わらないと思うことはありますか。**

鈴木：これまでに野原先生や永瀬先生の引っ越しのお手伝いもしたことがありますが、そのときも本が多かったのを覚えています。この研究室の先生はみな本が多いというのは変わらないですね。

余談ですが、本の多さというと中島直人先生の助手時代の机が印象的で、「中島先生いないな」と思ったら山積みになった本の中から先生が出てきたのを覚えています（笑）。

五十嵐：昔と比べて変わったことといえば、最近の先生方は学生の「お兄さん」的な立場で、プロジェクトのミーティングなどで学生とさかんに交わっていますよね。一昔前の先生方は全体的に年齢層が高めで、そのような場もありなかったの、今よりもっと落ち着いていました。

鈴木：先端研にいた頃は、博士学生が修士学生に論文の指導をしたり、先輩が後輩を叱ったりする光景が結構見られたのですが、本郷ではそうした光景はほとんど見かけないですね。修士を取得した後にそのまま博士過程に進み、プロジェクトなどの場で修士学生と深く関わる、といった人が以前と比べて少なくなったからでしょうか。

五十嵐：博士学生が上の階（10階）の部屋に行くようになってしまったというのも理由としてあるかもしれません。昔は今とは逆で、9階のこの部屋に博士学生が多くいたのですが、いつの間に入れ替わってしまいましたね。

— 学生への提言 —

> **最近、研究室で気になることはありますか。**

鈴木：物が捨てられずにそのまま放置されがちですね。時間が経つといろいろな物が捨てていいものかわからなくなっています。今は使用していない古い電球や昔のスライドが出てきたり、ミーティング等でお借りすることの多い出口先生の部屋に昔のプロジェクト資料や8ミリテープが放置されていたり……。

五十嵐：研究室を整理しようとなると、研究室に長くて昔のことがわかるという人が要りますね。私たちではプロジェクトの資料などを捨てて良いかまで判断できません。

鈴木：資料整理を含めた研究室の環境整備に目を光らせる立場の方、昔からのことを熟知している方が今はいないのかもしれないですね。そうすると、学生がその都度主体的に資料や私物を整理し、引き継ぎをするなど、研究環境を整えるという意識向上とその実践が必要かもしれません。

みなさんの努力の結晶のような報告書や研究資料などはおそらく貴重なものだと思うので、宝の持ち腐れにならないように整理整頓してください。プロジェクトや論文執筆で忙しいとは思いますが、研究同様、頑張ってください。■

◆取材を終えて◆

研究室の昔話はこれまでも先生方やOB・OGの方から断片的に聞いていましたが、今回、研究室を長くにわたって客観的に見ているお二人にお話を伺うことで、様々なエピソードがきれいに繋がり、以前よりも少し都市デザイン研の歴史を立体的に捉えられたような気がします。また、それと同時に、長い目線で研究室のことを考え、短い学生生活の中でできることをしっかりとしていかなければならないと改めて感じています。

インタビューを引き受けて下さった五十嵐さん、鈴木さん、ありがとうございました。

※ 先端科学技術研究センター 都市保全システム分野（先端研については弊マガジン241号もご参照ください）

個性豊かな学部4年生、集う

Introduction of undergraduate 4th graders

text_NAKAMURA/M2

今月上旬、学部4年生の研究室配属が決定しました！今年度、都市デザイン研への配属が決まったのは、昨年より2人少ない4人。4年生の演習TAを受け持つ筆者にとっては馴染みの4人ですが、例年に違わず個性豊かな面子が出揃ったように思います。

《凡例》 ①出身高校 ②趣味／特技 ③都市デザイン研を選んだ理由 ④研究したいテーマ ⑤好きなまちとその理由



原 洪太
HARA Kota

- ① 栄光学園 ② 鉄道旅行
- ③ 先生方の都市の語り方と都市の歴史が好きなので
- ④ 深く考えていませんが、道の形成や形状のようなことに興味があります
- ⑤ 長崎／路面電車や坂の道の風景が魅力的



箭川 展
YAGAWA Hiromu

- ① 県立仙台第二 ② サッカー、ファッション
- ③ 自分とはどんな考え方をするのかと、なにがしたいかを軸に、最後は直感です
- ④ どのようなパブリックスペースが利用しやすいか、など
- ⑤ 二子玉川／新しさと穏やかさを兼ね備えているから



前山 倫子
MAEYAMA Rinko

- ① 富山中部 ② 路上観察のようなもの
- ③ 都市のづくりに興味があり、実際にプロジェクトに関わりたと思ったから
- ④ その場所らしさが分からない都市について、都市の見方について考えたいです
- ⑤ 新宿／多様なところが好きです



仙石 宇
SENGOKU Takashi

- ① 麻布 ② 音楽、ラケットを使わないスポーツ
- ③ 3年の集住の演習が面白く、またデザインの勉強をやりたかったの
- ④ 東京都23区外の将来的なあり方など
- ⑤ 恵比寿／坂を登ると一気に街並みが変わり面白い

Information

5月のウェブ記事

その他 高校生が研究室の見学にやってきました
三国PJ 三国祭に参加しました
三国PJ 三国祭ファンディング企画、試運転。
内子PJ 内子PJが始動しました
ぜひご覧ください！→ <http://ud.t.u-tokyo.ac.jp/ja/blog/>

6月の予定

6/11 富士吉田PJ 報告会
6/14 手賀沼PJ 現地視察
6/14-18 カトマズPJ 現地訪問
6/16 まちの活性化・都市デザイン競技 表彰式
6/20 研究室会議



編集後記

中村 慎吾

先月実施した研究室大掃除の際、なんと丹下研時代の資料が棚の奥から発掘された。この発掘は研究室の「資料蓄積力」の高さを物語っているが、同時に「資料整理力」の低さをも露呈している。どんなに貴重な資料が眠っているとしても、必要なときに即座に参照できる環境がなければ蓄積をする意味はない。後代のためにも、こまめに研究室の整理整頓をしていこう。